

研究発表もうしこみフォーム

氏名：ウゼムジ

氏名のローマ字表記：S. Uzemj

所属：昭和女子大学大学院博士後期課程

専門分野：モンゴル語学

発表のタイトル：中国の言語政策における内モンゴルのハルハ方言—1950年代の言語政策を中心に—

発表要旨（600字～800字程度）：

「ハルハ」というモンゴル民族の一支族はモンゴル国に広く分布している。そのため、ハルハ方言がモンゴル国のみ存在すると認識することが一般的であり、中国の内モンゴル自治区にもハルハ方言地帯が国境沿いに分布しているという事実はほとんど注目されてこなかった。

1950年代初頭、多民族国家を形成した中国は、ソ連の言語政策をモデルとし、それが中国における少数民族の言語政策に大きな影響を与えた。したがって、モンゴル語を含む少数民族の言語も中国語と並んで民族の共通語として新しい書きことばを形成することが可能になった。ソ連およびモンゴル人民共和国の強い影響下にあった内モンゴルでは、1955年にモンゴル人民共和国のキリル文字を公式に導入し、同時に新しい書きことばの基礎方言を制定するため、1955年から1956年にかけて大規模な方言調査を行い、モンゴル人民共和国との統一性を考慮した結果、シリーンゴル盟の北部を中心とする「内モンゴルのハルハ方言」を話す地域の方言を基礎方言とする決定が下された。しかし、1950年代末期からの中国の言語政策の変遷により、キリル文字の導入が中止され、内モンゴルの基礎方言として定められた内モンゴルのハルハ方言もほとんど言及されなくなった。

本発表では、1950年代初頭における中国の言語政策および、その後の言語政策の変遷が内モンゴルにおける方言分類と基礎方言の制定に与えた影響を考察する。それにより、内モンゴルのハルハ方言の存在および現代モンゴルの形成におけるその役割を明らかにする。さらに、モンゴル国の言語学者を中心とした方言分類研究において内モンゴルのハルハ方言がどのように位置付けられていたかを検討し、モンゴル国の国語である現代モンゴル語と内モンゴルのハルハ方言との共通性を再考する。